



TITLE:

「ヒメマルカツヲブシムシ」
Anthrenus verbasci Linnaeus.成蟲
の集來する花に就きて

AUTHOR(S):

山田, 保治

CITATION:

山田, 保治. 「ヒメマルカツヲブシムシ」 *Anthrenus verbasci* Linnaeus.成蟲の集來する花に就きて. 防蟲科學 1939, 3: 27-31

ISSUE DATE:

1939-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/156450>

RIGHT:

[ヒメマルカツヲブシムシ] *Anthrenus verbasci* Linnaeus.

成蟲の集來する花に就きて

山 田 保 治

[ヒメマルカツヲブシムシ]の成蟲は、野外の種々の花に集來する。成蟲が花に集まる状況は植物の種類によつて違ふ。斯の様に、此種の成蟲は野外の花に集まる習性を持つて居るが、野外の花に一度集まつてからでないと、繁殖することが出来ないかといふに、必ずしも野外に出なくとも、研究室内の飼育容器の中で、羽化した成蟲が其儘々容器の中で交尾産卵して、繁殖を繰り返して居るものも相當にある。

從來、此種の成蟲が花に集まるのは、花粉を食べたり、花蜜を吸収したりするため、其間に交尾をして、夜間屋内に飛來して、毛布や羅紗などの毛織物に卵を産み付け、野外では鳥の巢に飛來して、其所に落ちてある鳥の羽毛に産卵するものである」と言はれて居るが、此間の習性につきては、今少しく精査する必要があると思ふ。

[ヒメマルカツヲブシムシ]の成蟲が花に集來するのは、溫和なる晴天のときに最も多く、雨の日には殆んど見られなくて、曇天の日には少ない。昭和十三、十四の兩年に、京大農學部構内や、附近の北白川、茶山、一乗寺の、一帯に亘つて、四月下旬より七月上旬まで、晴天の時には殆んど毎日出かけて、觀察採集せる結果によれば、最初の採集日は五月八日で、最終は六月二十日であつて、五月八日以前と六月二十日以後には1匹をも見ることが出来なかつた。即ち、[ヒメマルカツヲブシムシ]成蟲の野外の花に集來するのは、京都附近では、五月中旬から六月中旬の間で、其中でも特に多いのは五月下旬から六月上旬の間であつる。此時季に1個の[フランスギク]花上に集まつて居る此種成蟲は多いのでは、30匹を數へることが出来た。

[ヒメマルカツヲブシムシ]成蟲の集まる花が、植物の種類によつて相違のあることは、既に前に述べた如くであり、其數が非常に多いもの、少ないもの、或は全然集まらないものもある。従つて、此種成蟲が集まる植物の種類と其集まる程度の相違を知り置くことは、[ヒメマルカツヲブシムシ]の防除対策上、最も必要な調査事項の一である。由つて、筆者が從來、京都附近及び其他に於て調査せるものと、先輩諸氏によりて記述されたるものとを參照して、此種成蟲の集まる花の植物種名と蟲の集まる時期及び蟲の集まる多少につきて、以下記載して見ようと思ふのである。此調査をなすに當りて、植物種名の同定に就き、懇切に教示されたる理學博

土小泉源一氏と農學士左田本亘氏に對して、深謝の意を表すると共に、調査に終始助力せられたる谷口久代氏に感謝の意を表す。

〔ヒメマルカツラブシムシ〕成蟲の集來する植物。

植 物 科 名	植 物 種 名	花ノ色	成蟲集來期	成蟲集來高	觀察地ト觀察者
I. Saururaceae. ハンゲシヤウ科	1. Houttuynia cordata Thunb. ドクダミ. [ジウヤク]	白	6 月 上 旬	少	京 都—山 田
II. Pagaceae. 藪 斗 精	2. Castanea crenata Sieb et Zucc. クリ.	淡黄白	6 月 上 中 旬	多	京 都—山 田
III. Caryophyllaceae. ナ デ シ コ 科	3. Dianthus superbus L. var. long icolycina Williams. カハラナデシコ. [ナデシコ. ノ ナデシコ. ヤマナデシコ]	淡 紅	5月下—6月上旬	少	京 都—山 田
	4. Gypsophila elegans Bieb. ハナイトナデシコ. フタマタコ コメナデシコ俗ニ[カスミサウ]	白	5 月 下 旬	少	京 都—山 田
IV. Nymphaeaceae. ヒツジクサ科	5. Nymphaea sp. [スキレン]の一種	—	—	—	靜 岡—矢 後
V. Ranunculaceae. ツマノアシガタ科	6. Paeonia albiflora Pall. シヤクヤク. [エビスグサ. エビ スグサリ. スミグサリ. カホヨ グサ]	淡紫赤	5 月 上 旬	少	東 京—撮 阪 高 知—山 田
VI. Papaveraceae. ケ シ 科	7. Papaver somniferum L. ケシ	白	6 月 上 旬	少	京 都—山 田
VII. Cruciferae. 十 字 科	8. Alyssum maritimum Lam. ニハナヅナ. [アリツスム. ハマ アリツスム. コバナレセダ]	—	—	—	靜 岡—矢 後
	9. Brassica cerunua Forbes et Hemsl. アブラナ. [ナタネ. ツケナ]	黄	5 月 下 旬	多	京 都—山 田
	10. Deutzia gracilis Sieb et Zucc. var. Typica Makino. ヒメウツギ	白	5月上—6月上旬	少	京 都—山 田
	11. Deutzia scabra Thunb. var. crenata Makino. ウツギ. [ウノハナ. クチベニウ ツギ]	白	5月下—6月上旬	少	京 都—山 田
VIII. Saxifragaceae. ユキノシタ科	12. Hydrangea macrophylla DC. subv. Typica Makino. アマチヤ	青 白	6 月 上 旬	少	京 都—山 田
	13. Hydrangea Hortensia DC. var. Otaksa Maxim. アザサキ. [テマリアザサキ. テ マリバナ]	淡 紫	6 月 上 旬	少	京 都—山 田
	14. Hydrangea macrophylla DC. f. azisai wils. ガクアザサキ	淡 紫	6 月 上 旬	少	京 都—山 田
	15. Saxifraga stolonifera Meerb. ユキノシタ. [キシンスウ. イハ ブキ. イハカツラ. イトパス]	白	5 月 下 旬	少	京 都—山 田

植 物 科 名	植 物 種 名	花ノ色	成蟲集來期	成蟲集來高	觀察地ト觀察者
IX. Rosaceae. イ バ ラ 科	16. Photinia grabra Maxim. カナメモチ. [カナメガシ. カナメノキ. アカメ. ソバノキ]	白	5月下—6月上旬	多	京 都—山 田
	17. Pyracantha coccinea Roem. トキハサレザシ	白	6 月 上 旬	少	京 都—山 田
	18. Rhodotypos scandens Makino. シロヤマブキ	白	5月下—6月上旬	少	京 都—山 田
	19. Spiraea cantoniensis Laur. コデマリ. [スズカケ]	白	5 月 中 下 旬	多	京 都—山 田
	20. Spiraea japonica L. var. ovatifolia Koidz シモツケ	紅	5 月 下 旬	少	京 都—山 田
	21. Exochorda serratifolia. ヤナギサクラ	白	6 月 上 旬	少	京 都—山 田
	22. Rosa sp. シロバラ	白	6 月 上 旬	少	京 都—山 田
X. Umbelliferae. 繖 形 科	23. cicuta virosa L. ドクセリ. [オホセリ. ハナワラヒ]	白	6 月 上 中 旬	少	京 都—山 田
	24. Cryptotaenia japonica Hassk. ミツバセリ. 「ミツバ」	白	6 月 上 中 旬	少	京 都—山 田
	25. Daucus carota L. ニンジン. [ナニンジン. ハタニンジン. セリニンジン]	淡黄白	6 月 上 中 旬	多	京 都—山 田
XI. Ericaceae. シヤクナゲ科	26. Rhododendron lateritium Planch. サツキ	淡黄白	6 月 上 中 旬	多	京 都—山 田
	27. Ligustrum Ibota Sieb. イボタノキ. [イボタ. イボタラフ. イボノキ. イボトリ]	白	6 月 上 旬	少	静 岡—矢 後 京 都—山 田
XII. Oleaceae. ヒ ヒ ラ ギ 科	28. Syringa, amurensis Rupr. var. japonica Faranoh. ハシドイ. 「キンツクバネ. ヤチカバ. ドスナラ」	白	5月下—6月上旬	少	京 都—山 田
		淡黄白	6 月 上 旬	少	京 都—山 田
XIII. Verbenaceae. ク マ ツ ツ ラ 科	29. Verbena phlogiflora Cham. ハナガサ. [ビシヨザクラ. シキザクラ]	—	—	—	静 岡—矢 後
XIV. Scrophulariaceae. ゴマノハグサ科	30. Antirrhium majus L. ギンギヨサウ	—	—	—	静 岡—矢 後
XV. Rubiaceae. ア カ ネ 科	31. Serissa foetida Comm. ハクテウゲ. [ハクテウボク. コウテウゲ. リトウハクテウゲ. グンテイシ]	—	—	—	東 京—磯 部
	32. Diervilla grandiflora Sieb et Zucc. ハコネウツギ	淡紅色	5月下—6月上旬	少	京 都—山 田
XVI. Caprifoliaceae. スヒカヅラ科	33. Sambucus Sieboldiana Blume. ニハトコ. [タヅノキ]	白	5月下—6月上旬	少	京 都—山 田
	34. Viburnum dilatatum Thunb. F. hispidum Nakai. アラゲガマズミ	黄 白	6 月 上 旬	少	京 都—山 田
	35. Viburnum Sieboldi Mig. ゴマキ. [ゴマシホヤナギ]	白	6 月 上 旬	少	京 都—山 田

植物科名	植物種名	花ノ色	成蟲集來期	成蟲集來高	觀察地ト觀察者
XVII. Liliaceae. ユリ科	36. <i>Allium fistulosum</i> L. ネギ. [ネブカ]	白	5月下旬	多	京都一山田
	37. <i>Ornithogalum arabicum</i> L. クロボシオホアヤメ	—	6月上旬	—	宮崎一矢後
XVIII. Iridaceae. アヤメ科	38. <i>Spraxis leneata</i> Pax. スホセンアヤメ	—	—	—	静岡一矢後
	39. <i>Centaurea cyanus</i> L. ヤグルマギク	淡紅白	6月上旬	少	京都一山田
XIX. Compositae. キク科	40. <i>Chrysanthemum Coccinum</i> Willd. アカバナノムシヨケギク. [アカバナノノミヨケギク]	淡紫赤	5月下旬—6月上旬	少	京都一山田
	41. <i>Chrysanthemum coronarium</i> L. シユンギク. [キクナ. ムツンサウ. カツライギク. フダシギク]	黄白	5月下旬—6月上旬	多	京都一山田
	42. <i>Chrysanthemum frutescens</i> L. キダチカメツレ. [モクシユンギク. マーグリット. マガレット]	—	—	—	東 京一磯 部 静 岡一矢 後 岐 阜一廣 瀬 静 岡一矢 後 岐 阜一廣 瀬 福 井一敦 賀 四 日 市 一 京 都 岸 和 田 一 高 知 宮 崎 一
	43. <i>Chrysanthemum Leucanthemum</i> L. フランスギク	白	5月中下—6月上旬	多	福 井 一 敦 賀 四 日 市 一 京 都 岸 和 田 一 高 知 宮 崎 一
	44. <i>Chrysanthemum nipponicum</i> matsum. ハマギク	—	—	—	東 京一磯 部
	45. <i>Coreopsis Drummondii</i> Torr et Grey. キンケイギク	—	—	—	東 京一磯 部
	46. <i>Erigeron annuus</i> Pers. ヒメジョオン. [イヌヨメナ. ヤナギハヒメギク]	黄白	5月下旬—6月中旬	少	福 井 一 敦 賀 京 都 一 山 田

以上の如く、観察せし46種の植物の中で、特に多く「ヒメマルカツオブシムシ」の成蟲が集來したのは、次の6科8種、即ち、「クリ」(2)「アブラナ」(9)「カナメモチ」(16)、「コデマリ」(19)「ニンジン」(25)、「ネギ」(36)、「シユンギク」(41)、「フランスギク」(43)である。

之等8種の植物の共通點として、肉眼的に見られるのは、花の色彩が殆んど皆白か、或は白に近い色彩をして居ることと、開花時期が殆んど皆同一なることの、二つだけであつて、他に特殊な點は殆んど見出すことが出来ない。花の色彩が白で、咲く時期が同一であることだけならば、之等以外の他の植物にも多く見受けられるのにもかゝらず、前述8種の植物に限つて特に多く集來することは、他に特殊な或る原因が存在しなくてはならない、之に就きては更に研究の上で他日報告の機会があると思ふ。

「ヒメマルカツオブシムシ」の成蟲が、「フランスギク」花に多く集まる習性に就きては、既に述べた通りであるが、之に関連して次の様な興味のある話を聞いたことがある。京都北白川一



〔フランスギク〕花に集まれる〔ヒメマルカツオブシムシ〕の成蟲、略々實大。

帯の農家では、從來副業として、草花を多く栽培して居る。之等の花は夕方切り取られて、翌早朝市中を賣りに廻はる。此仕事は殆んど皆婦女子によつてなされて居る。處が、早朝、頭上に乗せられたり。小車に積まれて、家を出るときには、其花の中の〔フランスギク〕に〔ヒメマルカツオブシムシ〕の成蟲が、1匹も止まつて居なかつたのに、市内を賣りに廻つて居る間に、此成蟲が何時何處からともなく、頭上や、車上の花〔フランスギク〕に集まつて來て、正午頃にもなると、賣れ残りの花に多く見られるので、賣れ残りの上に、蟲が花に止まつて居るので、斯の様な花はだめだと言はれて、小言を聞いた上に、買つてもらへないことが、度々あるので困ると云ふのである。面白い話だと思ふので聞いたまゝを附加へて置く。

文 獻

1. 磯 部 辰 雄 毛類製品の貯藏と其害蟲、科學知識第四卷第四號、39—40頁〔大正十三年〕1924。
2. 横 山 桐 郎 最新日本蠶業害蟲全書、126—127頁〔昭和四年〕1929。
3. 〃 日本産蠶節蟲の研究(二)、〔ヒメマルカツオブシムシ〕。形態並に生態、蠶業試験場報告第七卷第九號〔昭和四年〕1929。
4. 矢 後 正 俊 〔ヒメマルカツオブシムシ〕の集まる花と集まらぬ花の調査、病蟲害雜誌第二十卷692—696頁〔昭和八年〕1933。
5. 廣 瀬 幸 一 姫丸蠶節蟲防除の一策として集花驅殺の効果、昆蟲世界第三十八卷50—52頁〔昭和九年〕1934。

〔終り〕。